女子大学生の総合職内定要因に関する実証分析

安田宏樹[†]・荒木宏子[‡]

【要約】

我が国は、労働市場における女性の活躍が十分に進展していない国の一つであり、長期的な視点から労働市場における女性の活躍を推進するためには、将来の有力な管理職候補である総合職女性の増加が重要な政策課題であると思われる。そこで、本稿では、女子大学生の総合職内定者の特徴について文系・理系別に分析し、将来の女性管理職増加に寄与する視座を得ることを目的とした。

分析には、全国規模の大学生をサンプルとする、『大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査』（労働政策研究・研修機構）の個票データを用いて、文系・理系に分けて女子学生の総合職内定獲得要因について分析を行った。分析の結果、得られた結果は以下の通りである。

文系においては、多くの企業にエントリーした女子学生、「企業の知名度」や「企業の将来性・安定性」など「企業ブランド」を重視して就職活動を行った女子学生は総合職内定を得る確率が高い傾向が観察された。また、私立大学の偏差値 57 以上、商学部・経済学部などの社会科学系の学部に所属している女子学生の総合職内定率が高いことが分かった。

一方、理系においては、将来について目的意識を持って大学に入学してきたキャリア意識の明確な女子学生ほど、総合職への内定を得やすい傾向が観察された。

そして、文系・理系に共通する要因として、OB・OG に数多く会ってきた女子学生が総合職内定を得ている傾向が観察された。卒業生と直接会い、さまざまな情報交換をすることが総合職内定に結び付いている可能性が示唆される。

† 慶應義塾大学経済学部
‡ 慶應義塾大学経済学部